「発達障害（自閉症）のある生徒への社会参加を目指した教育的支援」

平成 24 年 10 月 27 日（土）10:00-12:00 に、「発達障害（自閉症）のある生徒への社会参加を目指した教育的支援」を岐阜大学教育学部Ｂ107 教室で開催いたしました。
教師、保護者、学生等の 127 名が参加されました。

発達障害（自閉症）のある生徒が、地域や社会の様々な活動に参加していくためには、本人への指導のあり方を探求するとともに、本人が力を発揮しやすいように周囲の人々に働きかけ、環境を整えていくことが不可欠です。

そこで、今回の講座では、わが国の自閉症教育を先導しておられる、横浜国立大学教授の渡部匡隆先生をお招きし、応用行動分析学の立場から、地域や社会につながる学校での指導のあり方や環境への働きかけについてご講演をいただきました。

近景　ご講演では、自閉症児の追跡調査研究を踏まえて、ライフスタイルの充実を目指した行動の選択性の拡大を目標として、自閉症の特性への配慮と今ある力を活かしたスキル形成とともに、それを実社会で使える力とするための環境への介入が重要であることを解説してくださいました。それを学校教育において実現するための要は、「般化を目指した計画的な指導の開発と評価」です。それは「あるべき環境のシミュレーション」であり、そこでの行動の成立条件を基に、現在環境に不足する手がかりや強化を発見し、それを現在環境に要請し、構築する作業です。

こうした考えのもと、先生が取り組まれている学校との共同研究から、スキルの機能（スキルを活用して楽しみや喜びを味わうこと）を重

要視すること、学校の教育課程を見直すことにより計画的な学習機会を多数確保できること、その指導を教師が地域で展開し、必要な支援を要請することにより、地域における相互作用を改善できることを示してくださいました。それは「地域の資源と連携した計画的な学校での指導」という支援モデルです。

まさに、個人と環境のかかわりの中で「障害」を捉え、それを行動レベルの課題として分析し、そこから個人と環境の双方へアプローチする応用行動分析学を学校教育においてどのように具現化できるかをお示しくださる内容でした。学校教育がもつ可能性を教えてくださるとともに、今度進むべき方向性を明確に示してくださったと思います。

次回は１２月２日（日）１０：００－１２：００の公開講座になります。
引き続きよろしくお願いいたします。